

令和元年度第1回高岡市介護保険運営協議会議事録

日 時：令和元年8月30日（金）午後6時30分から

場 所：高岡市役所8階803会議室

（審議・意見交換要旨）

＜事務局説明＞

（1）平成30年度 高岡市介護保険事業実施状況について

委員

資料No.1、2 要介護・要支援認定の状況の表について、認定者計から第1号被保険者を引いた数が第2号被保険者の数ということか。第2号被保険者は180人程で、あまり増減はないということでしょうか。

事務局

ご認識のとおりである。

委員

別紙1の表中、網掛けのされている「介護予防訪問通所サービス」というのは、訪問サービスと通所サービスのことでよいのか。

事務局

ご認識のとおりである。

委員

資料No.1、3 居宅・施設サービス等利用者の状況にある表や、グラフに記載の利用者数は、いつ時点の利用者数か。

事務局

平成31年3月中にサービスを利用された方の実人数である。

委員

別紙1表中の、複合型サービス備考欄について、「市外に事業所がないため計画値に計上しなかった」とあるが、「市内」「市外」どちらなのか。

事務局

「市内」の誤りである。

委員

資料No.1の第1号被保険者の状況では、概ね前期高齢者と後期高齢者の割合がわかるようになっているが、施設サービスの現状をいうと、現在の入所者は、私の勤務している施設では、85歳以上が74%、75～84歳は14%である。高齢者を65歳以上として一括りで見ると、施設サービスのニーズはあまり変動がないように見えるが、85歳以上でみると、施設サービスのニーズが高い傾向にある。後期高齢者が増えると、介護度が高くなる傾向にあり、在宅サービスのニーズが低下し、施設サービスのニーズが増加すると予測される。これを踏まえて今後の介護サービス提供体制を検討してほしい。

委員

今後、施設サービスのニーズが増えるという意見もあるが、国は、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けるという方針を打ち出している。

委員

在宅サービスの中で、「疑似特養」ができているように感じる。例えば、サービス付き高齢者向け住宅にヘルパーを張り付けて入居者にサービス提供するということは、移動に時間を費やさず効率がよく、施設的なサービスである。国の政策の問題もあるが、サービス付き高齢者向け住宅を使った在宅サービスを、介護保険サービスの中で位置付け、一定水準以上のサービス提供が行われるように指導監督することが必要になってくるのではないかと思う。

事務局

介護保険制度は、成熟されたものではなく実態を踏まえながら制度が追いかけているような状況にあると思う。制度改正を行うことで、国がしっかり実態を後追いしているということである。ご提案のあったことについては、国において制度化されれば、本市としても対応していきたい。

委員

サービス付き高齢者向け住宅や老人ホーム等において、本人ができることと比して過大なサービス提供がされているケースもあるように感じる。自宅で長く過ごすことは理想だが、現実には困難な面もある。地域の方の力、介護保険制度が追いついていないという面もあるが、高岡市としての方向を考えていただきたい。

委員

高齢者が地域で暮らし続けていくために、地域づくりをどうしていくか考えることが、現在の介護保険制度の中でも大きな課題である。

高齢者の尊厳の保持と自立支援の目的のもと、地域包括ケアの基本は、本人の意向と、本人の家族の覚悟である。「人生会議」※をやって地域、家族が本人の人生をどう考え、支えていくかというのが重要である。

※「人生会議」・・・もしものときのために、本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のこと。

委員

介護相談員をしているが、通所サービス事業所に訪問に行った際、交通事故に遭われた 90 代の女性の話を伺った。骨折をして急性期病院を退院後、老人保健施設でリハビリを行い、自宅に戻られたそうである。一人暮らしの方で、現在、訪問サービスと通所サービスを入れて生活しておられる。医療と介護の機能を活かした理想的な在宅復帰の例だと思う。介護相談員をしていると、サービス利用者のご不満を伺う機会もあるが、引き続き、介護保険に関わっている職員や行政、地域住民による連携を期待する。

委員

このような話を聞くと、介護の現場で働く者も元気が出る。

<事務局説明>

(2) 第 7 期介護保険事業計画における取組と目標に対する進捗状況について

委員

資料No.2－1の「はつらつ広場」は、未発表の事業か。もうスタートしているのか。

事務局

「はつらつ広場」は既存の介護予防活動を統合・再編し、住民主体による運動機能向上を目的とした通いの場である。この内容は、第 7 期介護保険事業計画策定時にお示ししたものであり、すでに着手し実施している地域もある。

委員

事業の周知は進んでいるのか。

事務局

「はつらつ広場」の立ち上げ箇所が増加するよう「高岡はつらつストレッチ体操」等に取り組んでいる団体に対して、普及啓発しているところである。地域の住民や団体等で構成される「支え合う地域づくり会議」の中でも説明している。

委員

ボランティア連絡協議会には 200 の団体が登録されている。情報提供があれば、連携して新

しい団体を立ち上げたり、活動の幅を広げたりできるのではないかと思います。ボランティア連絡協議会にも資料を送っていただきたい。

委員

市からふれあいいきいきサロンを、はつらつ広場に転換してほしいという話は聞いており、各地区社協にも説明した。昨年度は、市で横田地区をモデル地区として、取組みを実施されたと聞いている。ふれあいいきいきサロンは、閉じこもり予防として、各地区社協で実施しているが、はつらつ広場に転換していくスキームが皆さんなかなか納得できないでいる。ふれあいいきいきサロンは、年6回以上の実施だが、はつらつ広場になると月2回で計24回となり、開催回数は4倍になる。従来の閉じこもり予防から、運動機能向上型で、みんなで元気になっていこうという趣旨は理解できるのだが、どのように運営していくのか、転換のスキームを明確に示す必要があると考える。

事務局

ふれあいいきいきサロンについては、地域からも転換についての課題は聞いている。一方で、ふれあいいきいきサロンの運営自体も大変だという話もある。住民主体で運営していく場合に、高岡市では、運動機能向上型を推奨しているが、地域の方がこういったやり方がよいのか等を「支え合う地域づくり会議」で地域のみなさんの声も十分聴きながら進めてまいりたいと考えている。

委員

回数を多くやれるよう、仕組みづくりを考えていかなければならない。また、事業の周知も広く行っていただきたい。

<事務局説明>

報告(1) 平成30年度 保険者機能強化推進交付金の実績について

(意見なし)

<事務局説明>

報告(2) 低所得者の第1号介護保険料負担軽減について

(意見なし)